



オンライン学習をしながら 体も心も健康に過ごす 8つのヒント

～コロナ禍に家庭でこころがけたいこと～

WJLS 教育人事部主催

家庭学習勉強会

青い封筒キャンペーン

ジョイントイベント開催

1月30日(土)

午後4時開始

遠隔授業が長びく今だから
 心身の健康管理にタイムリー
 な学びを現役 **OT** 作業療
 法士をしておられる松田直子
 先生にお話いただきます。

ラッフル抽選会は勉強会

直後午後5時スタート!

イベントの zoom 情報は 1/28

木曜日午後にメール配信

勉強会の問合せは: kj@wjls.org

ラッフル抽選会: Zaimu@wjls.org

各種日本語試験講演会（広報部）

日時: 2月13日(土) 午後4時～5時頃

形態: Zoom Meeting

中高生になると現地校の比重がグンと上がり、日本語学校の勉強がおろそかになりがちで、親子バトルになっていませんか？

日本で進学する場合はもちろん、将来にわたって米国で在住するにしても、英語以外の言語を習得していることを証明できれば、進学や就職の際に加味される制度があります。補習校で学んでいる日本語が米国社会でも有利な武器になるのです。

アメリカ中部大西洋岸日本語教師会 (<http://maatj.weebly.com/>) からジョージタウン大学の森美子准教授とメリーランド大学ボルチモア校のフーゲンブーム智子教授をお迎えして、Seal of Biliteracy、日本語能力試験、AP/IB Japanese および SAT Subject Test、Credit by Exam などの各種日本語試験についてお話しいたします。それぞれの特徴や目的に合わせた使い方、いつの時点で受験すべきかなどを知っていれば、ハイスクール入学前、もしくは入学後の早い段階から準備することができます。

詳しい参加情報は2月にメールでお知らせしますので、どうぞお見逃しなく。

【募集】次期学年代表立候補者募集（学年代表）

保護者の皆様、日頃より日本語学校の運営にご協力くださり、誠にありがとうございます。現職学年代表の任期満了に伴う次期（2021年4月から1年間）学年代表の立候補者の募集をいたしますので、奮ってご応募ください。



立候補締め切りは2021年1月29日（金）の予定です。立候補される方は学年代表 (gakunendaihyo@wjls.org) までメールでご連絡ください。

<学年代表> 募集人数：低学年代表（幼稚部-小2）1名・中学年（小3-小5）1名・高学年（小6-高2）1名 合計3名

本校は、保護者から選ばれた19人の運営委員から成る管理運営委員会によって運営されております。学年代表は管理運営委員の一員となり、学級代表との連絡・調整など、保護者と管理運営委員会の架け橋として、日本語学校の運営の一端を担っています。

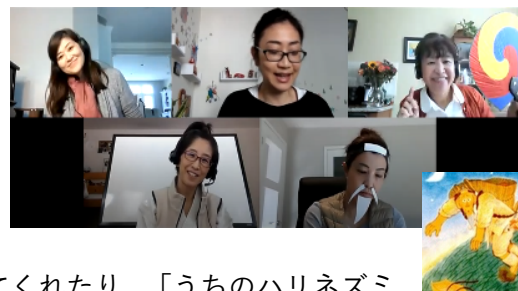
2020年度全校アンケート実施のお知らせ（教育人事部）

日頃よりワシントン日本語学校運営へのご協力をありがとうございます。今月、恒例の全校アンケートを実施いたします。対象は、保護者(各家庭につき1回答)、生徒(小学部1年生から高校2年生まで、一人ずつ1回答)、教員の皆様です。低学年のお子様がお回答する際には保護者の方のお手伝いをお願いいたします。新型コロナウイルス感染症拡大以来、お子様がオンライン環境で学習に取り込む中で感じたこと、また、お子様の得意、不得意科目や、オンライン授業に希望する改善点など、学校の様々な面についてご意見を伺います。運営委員会に届くご意見が一部の方のものに偏らないように、回答資格のある方全員のご協力をお願いいたします。なお、アンケートは、1月16日(土)にお送りできるように現在準備を進めております。より良い学校作りのために、皆様の貴重なご意見を学校運営の参考にしていきたいと考えています。本年度もご協力をお願い申し上げます。

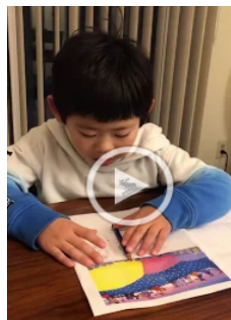
お問い合わせは、教育人事部(kj@wjls.org)までお願い致します。

日本語学校というコミュニティ(小 3A 担任、福島加代子)

黙っていたって生き生きして、お肌もすべすべのピチピチ！授業で一日中子どもの顔を見ていると、自分も彼らのようにピチピチの希望溢れる顔をしていると真面目に勘違いしてしまう。(授業後、鏡で自分の顔を見ると現実に戻ります。) そんな子ども達は、zoom を通して「今日、サッカーの試合があるの、とても強い相手とするんだよ！」と、サッカーボールで新しい技を見せてくれたり、「うちのハリネズミは寝てばかりいるよ」と、ハリネズミをカメラの近くに連れてきて見せてくれたりする。「鬼滅の刃はこわいよ、一卷はね！」「これがバンギラス (ポケモン) っていうんだよ！」「先生、クイズだよ、これわかる？」等々。誰も「コロナ感染者が多くなってきましたねえ〜」とか、「ワクチンはいつ受けられるんでしょう？」とか、私が心配しているようなことを話題にする子どもは一人もいない！子ども達そのものが将来への希望であり、力強いなあと感心する。そんな子ども達が zoom の中でも「先生！」と呼んでくれるのがとても嬉しい。



昨年 11 月に、担任を務めている 3 年 A 組で zoom による AG5 の研究授業を行った。AG5 (エー・ジー・ファイブ) は、公益財団法人海外子女教育振興財団が文部科学省より受託して行っているプロジェクトで、授業づくりには研究員の先生からアドバイスがいただける。今回の授業で取り上げた国語の「三年とうげ」の検討会や研究会では、世界中の日本人学校や補習校の先生方がスクリーンを通して参加してくれ、zoom 授業のこれからの可能性についても考えさせられた。



音読劇の発表会をゴールとした今回の授業づくりでは、AG5 研究員の先生やワシントン日本語学校の先生方、そして子ども達と保護者の方々とコラボレーションして作ったような、そんな感覚を味わえた。子ども達は、お家で授業の中心となるワークシートに取り組んだり、音読劇で自分の読む分担箇所を練習し、その様子を Google Classroom に提出したりと、お家の人のサポートを受けながら課題に一生懸命取り組んだ。歌も入れた劇だったのでピアノやチェロを練習し、その成果を披露してくれた子ども達もいた。学習目標を達成するために、新しい教育ツールとなった zoom や Google Classroom の活用にも挑戦することができた。

どんな環境にあっても、今あるツールを使って子ども達に関わり続けて伸ばすぞっ、というプラス思考になれた研究授業は、異国の地で今まで経験したことのないパンデミックの渦中にいて、頭の中は心配事だらけの私を支える、一筋の希望のようなものであった。ピチピチ顔の子ども達が懸命に勉強できる環境を整え、教育を止めずに続けていく、その大切さを学んだように思う。また、今回の経験によって、私はワシントン日本語学校という大きなコミュニティの一員なのだと、強く感じさせられた。

この冬休みはどこにも行けず、おとなしく家で過ごした。とても新鮮だったのが、クリスマスに夫がキャセロールを作ったこと。新しいレシピに挑戦することなどない面倒くさがり屋の夫だが、親戚中に連絡してレシピを手に入れ、材料を揃えて作っていた。昨年亡くなった彼の祖母のレシピで、94 歳になるまで作ってくれていた。大量の卵やチーズ(ここだけの話、私は苦手!)に負けないほど思い出がたくさん詰まっているようで、顔を輝かせながら作っていた。祖母への想い、親戚で集まるクリスマス、たくさん笑ったことや冗談を言いすぎて怒らせたこと?! 等、大好きな家族たちとの大事な時間を、ずっと心の拠り所にして大事にしておきたいのだろうと、勝手に想像して涙ぐみそうになる。

親戚の集まりのような、そんな居心地の良い場所に、日本語学校になるといいなあと思う。できれば、子ども達もこの大きなコミュニティに属していると感じて(それが強いものでもゆるいものでも)、「日本」という何かしらの共通点を持ったグループの中で、安心して勉強して欲しいと思う。



補習校が導いてくれた「自分らしさ」（2016 年度卒業生 ホルブルック香里奈）

私が幼稚部から高等部まで通った補習校を卒業して、やっぱり補習校に行ってよかったな、と初めて思ったのは高校3年生の時にラトビアに留学した時だ。言語習得を目的に国務省の運営している国際交流プログラムに参加し、2か月間滞在する機会を得た。

ロシア語とラトビア語が共通言語であるラトビアであるが、実際の所はロシア語を話す民族とラトビア語を話す民族は居住地が異なることが多い。そんな中、両言語を母国語として育った人、言ってみればロシア人とラトビア人の「ハーフ」も存在する。ラトビア政府とロシア政府の関係が悪化している現在、ロシア語もラトビア語も話せる彼らはラトビアで「ロシア」の代表者として活躍している。代表者と自覚しているからこそ、自分の言語と文化を継承したい、そして両国の関係を改善したい、という意識や責任感を持っている人も多い。

このような背景があるからこそ、日本人を自負する私も知らぬうちにラトビアでは「日本の代表」になっていた。ラトビアはヨーロッパ連合の一員なので日本とは良い関係を築いている。しかしながら、殆どのラトビア人は日本人を実際に見たことがないし、アジアに行ったことすらない。私はラトビアにいる間、日本の文化や政治、習慣などについてよく質問を受けたが、日本の代表の一人としてきちんと答えたい、と強く感じた。その時、役に立ったのは補習校で学んだ知識だった。言語、歴史、社会、お正月などの恒例行事を含めた文化についてしっかりと語れたのも補習校に通ったからである。色々な会話を通して、地元の人との関係が自然と深まり、お互いの国をより理解できるようになったのもこのような交流の機会があったお陰だ。結局は個人的な人間関係が深まれば、国同士の関係にまで発展していくのだ、と実感した。

現在私はシカゴ大学の3年生で、国際政策とロシア語を専攻している。ロシアと日本は隣国でありながらも、北方領土を始めとする数多くの問題を抱え、お互いを警戒する関係である。しかし、軋轢が生じたのはここ最近で、ロシアは長い間親日国であったのだ。福井県敦賀市などを中心に、文化交流や貿易などが盛んだった時期もある。日露関係悪化の原因は様々だが、そのうちの一つは草の根の交流から成り立つ人間関係の喪失ではないか、と私は考える。また、ロシアと対立しているアメリカと日本の関係強化により発生した様々な国際問題も、日露間の信頼関係を悪化させ、更には人間関係の喪失につながったのではないか。実際ロシア人と話してみると、日本人やアメリカ人に好印象を持つ人も珍しくなく、文化や言語の違いのせいでお互いに歩み寄る機会が少ないだけなのでは、とも思える。



ラトビア人の友達とピクニック。
お互いの国について語り合った。

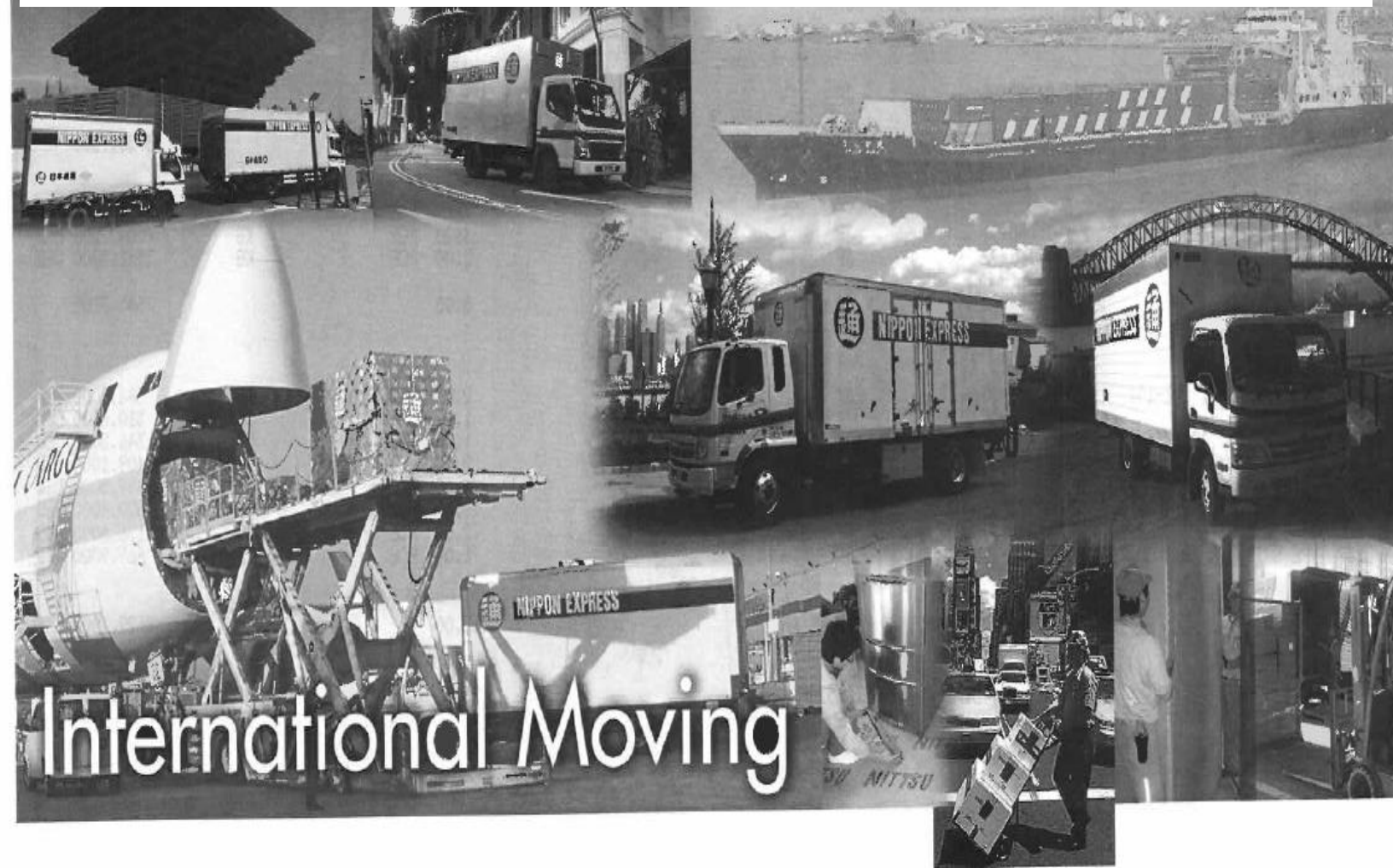


ラトビア貴族の衣装を着て文化交流

だからこそ私は今、補習校で学んできて本当に良かった、と思う。私なりに日本、アメリカ、ロシアという異なる三国の「架け橋」として日米露関係改善に取り組めるのは「日本人」としてのアイデンティティを忘れなかったからだ。アメリカでの日本語や日本文化の習得は補習校なしでは到底実現しなかった。ラトビアのロシア人と同様に、私は自分のルーツにある言語と文化を習得したからこそ「日本の代表」、そして三国の「架け橋」として自分らしく頑張っていけるのだ。

将来、私は外交を中心とした国際政策と日米露関係の改善に貢献したい。夢が叶うまでの道のりは長いが、補習校で学んだ「日本人らしさ」を心に留めて日々頑張りたい。

帰国の際の引越しは、日通にお任せ下さい



海外からの帰国にピッタリな引越しプラン

スタンダードサービス: 梱包から大型家具の輸送までお客様のニーズにお応えします。

スモールパッケージサービス: お荷物の少ない方にお勧めのお得なパッケージサービスです。

お申し込み、お問い合わせは米国日本通運ワシントン支店まで

委員長からの報告

明けましておめでとうございます。2021 年（令和 3 年）がコロナ禍第三波の最中にスタートしました。ロックダウン以降 9 ヶ月もの間、会いたい人とも十分に会えない不自由な生活を強いられていますが、今がおそらくトンネルを抜ける前の一番辛い時期と捉え、もう少し辛抱してください。ワクチンも出回り初め、対面開校ができる日は少しずつ近づいているものと思われます。

さて先月の運営委員会では来年度についての保護者説明会、保護者役割の再編成、さらに新・中期運営方針について話し合いました。今回の新方針は、過去 3 年間の「基軸と変化」という運営方針に変わる新たなもので、1) 教育、2) 学校人事と財務、そして 3) 日本語コミュニティという 3 つの柱を基に、「持続可能な学校運営」を目指して作成しております。特に教育方針については、運営委員会だけでなく現場に立つ教員からの意見や提案を反映して、新方針をまとめていきたいと思えます。この中には昨年度から話し合いを始めた「進級基準」という大きなテーマも含まれます。方針がまとまり次第、保護者の皆さんにもアンケートや説明会を実施してご意見をうかがう予定です。で、よろしくお願いします。

アマゾン・スマイルをご利用ください

[アマゾン・スマイル](#)をご利用いただくと、アマゾンでお買い物をするたびに、購入金額の 0.5% が自動的にアマゾン社から当校へ寄付されます。保護者の皆様にはご負担がない形で寄付ができる仕組みです。オンラインショッピングの際にはぜひアマゾン・スマイルをご利用ください。リンクはこちら→<http://bit.ly/Amazon4WJLS>



寄付にご協力ください！



ワシントン日本語学校では随時オンラインで寄付を募っております。
ご協力いただける方は、本校ウェブサイトの「寄付概要」ページ
(<http://www.wjls.org/giving-to-wjls/>)にある左の画像をクリックしてください。

委員長：	松井俊久
副委員長：	米下和宏
総務部：	渡辺政志（部長）・金杉沙織・ジャコブソン彩子・辻川扶紀・邊田寿俊
財務部：	野崎仁宏（部長）・大塚晴久
教育人事部：	ベイカー浩子（部長）・小野莉彩佳・加藤智之・金城由佳子・寺林武
広報部：	ミトリック理香（部長）・小寺友美
学年代表：	大根陽一郎（低学年代表）・森山妙子（中学年代表）・バンダイクゆり（高学年代表）